

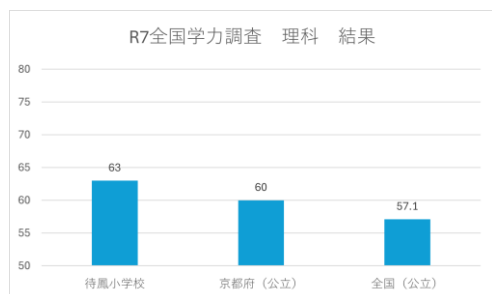
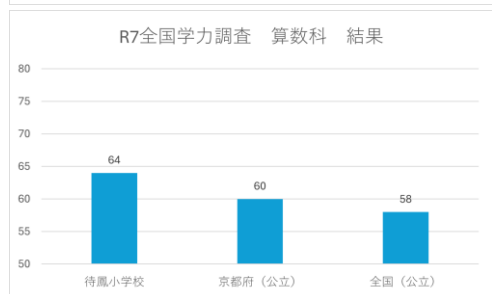
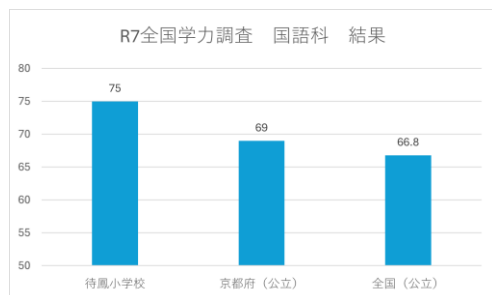
保護者の皆様

## ＜令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果について＞

京都市立待鳳小学校  
校長 牧 紀彦

4 月 17 日（木）に、本校 6 年生児童が全国学力・学習状況調査問題に取り組みました。その結果と、質問紙から見える本校児童の姿についてお伝えします。

### ＜学力調査について＞



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロックリーの出荷量が、増えたかどうかかわかります。

2023年の都道府県Aのブロックリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下の ア と イ から選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

小学校第6学年  
算数 解答用紙

（ここからよみかたを覚えておいてください）

1	(1)	記号	わけ
	(2)		

**国語科**について、本校児童の結果の平均は 75 ポイントでした。これは、京都府の平均（69 ポイント）より 6 ポイント上、全国平均（66.8 ポイント）より 8.2 ポイント上と、大変良好な結果を示しています。

本校の回答の傾向を見ていると、観点でいう「A 話すこと・聞くこと」や「B 書くこと」での正答率が、全国や京都府の平均より高いことがわかりました。「A 話すこと・聞くこと」の回答率は 9.6 ポイント「B 書くこと」の回答率は、8.6 ポイント京都府の結果を上回っています。普段の授業から友だちと交流し、自分の考えを書いたり発表したりすることを前向きに頑張っている児童の姿が結果として現れたのだと思います。

**算数科**について、本校児童の結果の平均は、64 ポイントでした。これは、京都府の平均（60 ポイント）より 4 ポイント上、全国平均（58 ポイント）より 6 ポイント上と、良好な結果となりました。

算数科では、評価の観点別に確認してみると「知識・技能」、「思考・判断・表現」共にバランスよく京都府を 4 ポイント上回っています。基礎基本の定着とそれらを使った応用問題を解く力がついてきているようです。問題を確認していると「解き方の説明や答えの理由」を記述するように求められている問題が 4 問出題されました（左の問題文参照）。単純に数字や式で回答するだけでなく、解き方や考え方を理論立てて記述する力が求められています。本校の児童は記述式の問題に対して「無回答」の児童の割合が全国や京都府に比べて少なく、問題に対して粘り強く取り組んでいます。しかし、正答率は 40.3 ポイントで選択式の正答率 72 ポイントと比べると高くありません。「思考・判断・表現の力をみる問題」は、記述式の問題となる場合が多いので、がんばっているとはいえ、さらなる思考の深まりが必要だと感じます。

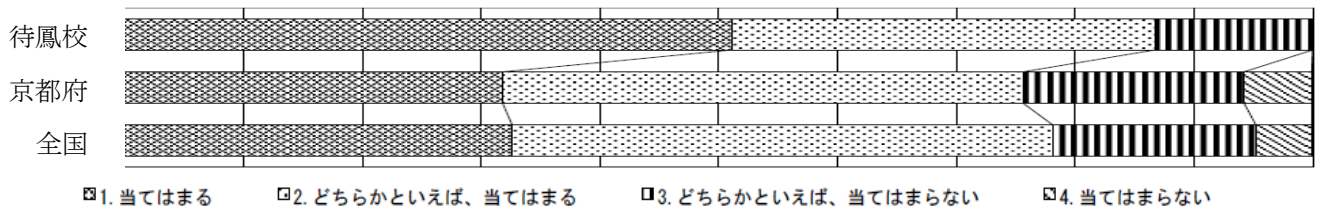
**理科**について、本校児童の結果の平均は、63 ポイントでした。これは、京都府の平均（60 ポイント）より 3 ポイント上、全国平均（57.1 ポイント）より 5.9 ポイント上と、他の 2 教科同様良好な結果となりました。内容も算数科の結果と類似しており、解答を用語で答える「短答式」では、79.5 ポイントと高い正答率であるのに対して「記述式」では 48.9 ポイントと低い数値となります。いずれも全国や京都府の平均よりも高いものの、今後引き続き充実を図っていきたいところです。授業中には、「人

に説明したり、自分の考えを文章で整理できたりすることが大切」ということを、繰り返し伝えていきます。また「説明やお互いの考えを交流しているうちに、新たな視点や発見につながった」という成功体験も大切です。これからも、より主体的に自分の考えを表現する機会を、授業に意図的に取り入れていきたいと思っています。

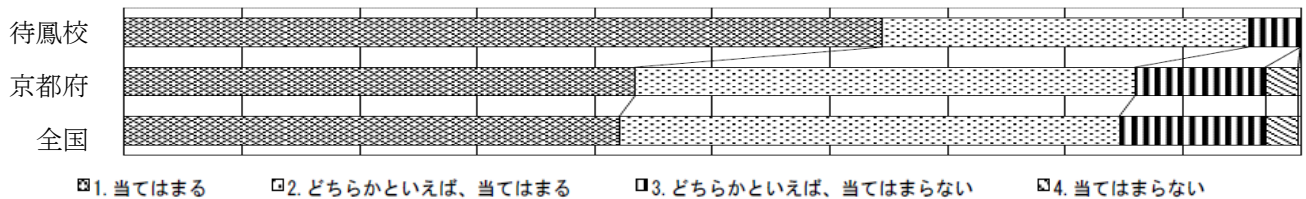
## <学習状況調査について>

児童質問紙の結果から、本校児童の学習・家庭の様子について考察したいと思います。結果を見ていると、本校の6年生児童が、「友達の意見を大切にしながら学習に取り組んでいる」ことがよくわかります。

(質問13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



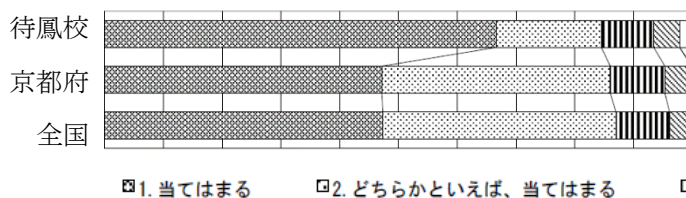
(質問30-6) 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したりくらべたりしやすくなりましたか。



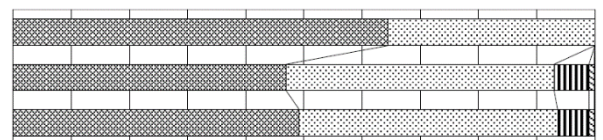
上の二つの項目以外にも、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問においても「当てはまる」と答えた児童が（本校71.1ポイント、全国49.1ポイント）ととても高い数値でした。このことから、本校の6年生児童は、周りの人の意見を大切にして授業や学校生活の中で生かそうとしていることがわかります。協働しながら学ぶ姿勢が身につけてきているように感じます。また、ICTの使用頻度が他校よりも高く、ほぼ毎日使用していると答えた割合が（本校86.7ポイント、全国46.7ポイント）となっています。GIGA端末の活用の促進は、個人の学習に終始し、コミュニケーションの機会が減るのではないかという面が危惧されております。しかし本校では、GIGA端末を情報収集や情報の整理をするためのツールではなく“情報の共有”に活用することで、今まで以上に意見交流を盛んにすることができると考えております。今後も「チームズ」「ロイロノート」等を活用しながら、これからの時代に合ったメディアリテラシー（能力）を身に付けるとともに、情報モラルについても学べる環境を整えていければと思います。

これからは、単に知識を「知っている」だけでなく、知識を生かして自分なりの考えを説明したり、考えを交流しながら新たな答え構築したりすること力が大切になってくると考えます。今後もICTを上手に活用しながら、学習したことを元に考えを深め合える子の育成を目指してまいります。

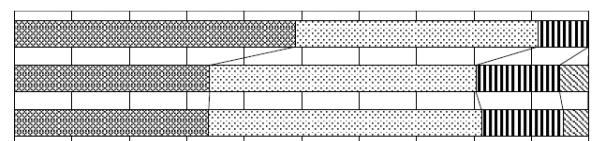
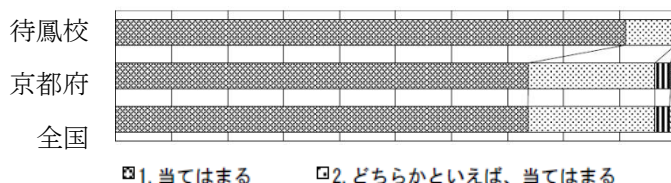
また、以下の質問から、6年生児童の「自己肯定感の高さ」と「公民としての意識の高さ」を感じました。  
(質問5) 自分には、よいところがあると思いますか。(質問8) 人が困っている時に進んで助けていますか。



(質問11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



(質問27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいですか。



家庭や地域に支えがあり、自分のことを大切に感じている子が本校は多いと思います。「よりよく生きたい」という子どもの思いを大切にして「夢に向かって挑戦する待鳳の子（学校教育目標）」を育めるように、今後も教員一同力を合わせていきたいと思っています。どうぞご協力いただきますようよろしくお願いします。